



新風会・公明
安岡孝一
議員

○ コロナ禍での暮らしを守る支援制度の活用について
○ いじめのない良き伝統をつくり次の世代へ

問 生活困窮者や中小事業者は、コロナ禍の長期化により厳しい状況にある。今年度、国の補正予算や県・市の予算に支援制度があるが、周知と活用の推進について伺う。

答 中小事業者の支援施策については、内容や対象者が改正されることもあるので、随時、広報やホームページ等の媒体で周知するとともに、多くの市内事業者が加入している勝山商工会議所と連携し、周知および活用に努めていく。

困窮相談については、今後も相談者の話に耳を傾け、丁寧な相談対応をしていくことで、相談者の不安払拭に務めていく。

問 全国の学校では、いじめの認知件数は6年連続で増加しているが、幸い勝山市においてはいじめの発生は少ない。この環境をさらに良き伝統とするため、小中学校入学式の校長先生の挨拶の中で「いじめは、いじめられる側に問題があるの

ではなく、いじめられる側が100%悪い、我が学校ではいじめは絶対に許さない」と決意を込めて宣言してはどうか。

答 子どもの身近にいる大人が「いじめは絶対に許さない」という強い姿勢を示すことは、いじめの未然防止や早期発見、早期解決に繋がるため、大切なことであると考えている。市内小中学校では、これまでも校長をはじめ全ての教職員が子どもたちにかつした姿勢を示してきた。

改めて、いじめ撲滅の決意を新たにするため、新学期が始まる適切なタイミングで、議員ご提案の「宣言」を勝山市のすべての学校が実践するよう指導したい。



市議会
丸山忠男
議員

○ 令和3年1月大雪について

その他の質問

- ・新年度予算について
- ・新型コロナウイルスを克服するビジョンについて
- ・市内中学校再編問題について

問 1月8日から10日までの3日間に新雪が19.5cmと降り、積雪深が22.5cmという想定外の雪のため、市内交通機関の休業、成人式の延期や市内小中学校の4日間の休業、公共施設の長期閉館等、日常的にも被害が出た。人的被害では死亡が1人、重傷が1人、軽傷が5人、物的被害では住家の一部損壊が1件、床上浸水が2件、床下浸水が9件、非住家3件、農業用パイプハウスの損壊が59件となっている。

答 雪害対策室や本部の設置とともに除雪体制や流雪溝の管理も一体的に運営する施策が求められるが、市の見解を伺う。

問 次の冬に向けた備えとして時間帯による排雪制限について検討していきたい。水路の水量を監視することで、効率的に流雪溝を活用し、日常生活への支障を極力抑える方法を取りたい。それには市民の理解と協力が必要であり、降雪期前に関係区の方々と充分協議していきたい。

問 雪害のない勝山市を目指すためには、効果的な雪対策を調査研究する必要がある。東北や上信越など先進地への視察も必要と考える。雪に強い勝山市の確立こそ水上市長のマニフェストであると確信しているが、市の見解を伺う。

答 今回の大雪では、道路、生活路線、歩道の除雪、スタック車両、水路詰まり、高齢者宅等の屋根雪下ろしや進入路確保、不在家屋の対応など、いくつもの課題を改めて研究する必要がある。

今回のように短い期間に大量の降雪となった場合に起きた事例を分析し、重要路線の排雪除雪が順次円滑に進むように除雪体制を構築することや、雪害に対応する先進地を視察して雪に強いまちづくりの制度や市、地域、団体の体制などの情報を得て、雪に強い勝山市に向けての取り組みを進めていく。